

りゅうのともだちづくり

北村 絢汰

むかしむかしあるところに、青と黒のしましまのようなりゅうがいました。そのりゅうは、トキトキのはと、ジンベイザメを食べれるぐらいの大きい体をもっています。

そのせいで、りゅうはみんなからこわがられています。ともだちはハト一つぴきです。

りゅうは、いじわるでもないし、なきむしでもないし、ふつうのせいかくです。ごはんはそらの雲を食べます。

ある日ハトと空で雲を食べながらおはなしをしていました。りゅうが「もっとともだちがほしい」とハトにそうだんしました。

ハトが「トキトキのはがこわいんじゃない」といいました。そこで、りゅうとハトは、はをけろうとがんばりましたが、だめでした。そこで、りゅうとハトは町にあるサーベルタイガーのはいしやさんにいくことにしました。町についてあるいていると、りゅうのすがたを見た町のどうぶつたちは、こわくなつてみんなかくれてしまいました。りゅうはか

なくなつたけど、はをけずればこわくなくなつてともだちができるとおもつたのでちよっぴりうれしくなりました。

はいしやにつくと、サーベルタイガーのはいしやさんがしんさつしてくれました。つよいサーベルタイガーなので、りゅうがこわくないのか、ふつうにはしてくれました。

りゅうは、じぶんがこわがられていて、ともだちがいけないこと、はがトキトキでこわいから、けずればこわくなくなつて、ともだちができるかもしれないので、はをけずってほしいことをはなしました。するとはいしやさんは「はがげんいんではなくて、どうぶつたちがりゅうというそんざいをしらないからこわがられているんだよ」とおしえてくれました。はいしやさんは子どものころずかんでりゅうを見たことがあるからこわくなかつたのです。はをけずらなくてもよくなつたのですが、りゅうをみんなにしまつてもらうために、なにをすればいいかわかりません。こまつて

いると、はいしやさんがおしえてくれました。「あいさつやじこしようかいをしてみたいんじゃない」それをきいてハトは、りゅうのかみしばいをつくってひろうしたらいいんじゃないかといってくれました。りゅうとハトは、いっしょにかみしばいをつくってハトが町広ばでひろうしました。

それをみたどうぶつたちは、あんしんしてともだちになつてくれました。